
「言語接触と系統継承：大湖地域から南部アフリカにかけて話されるバンツー諸語と隣接言語の
記述研究」（平成 20 年度第 1 回研究会）

日時：平成 20 年 6 月 28 日（土）午後 1 時より午後 6 時

場所：AA 研小会議室(302 室)

報告者 1：高村美也子（AA 研共同研究員、名古屋大学大学院）

報告タイトル 1：ボンディ族居住地におけるボンディ語使用の衰退-ボンディ族の生活環境とスワ
ヒリ語

報告者 2：八尾紗奈子（大阪大学大学院）

報告タイトル 2：チャガ語ウンジョ方言のテンス・アスペクト接頭辞について

報告者 3：米田信子（AA 研共同研究員、大阪女学院大学）

報告タイトル 3：ヘレロ語の名詞声調（Bantu, R31)-語声調の分類とその現れ方-

ボンデイ族居住地におけるボンデイ語使用の衰退 ーボンデイ族の生活環境とスワヒリ語ー

名古屋大学大学院文学研究科 高村 美也子

はじめに

ボンデイ語の言語使用に関する報告は、Willis(1992)、Legère(2002)があり、タンザニアの中でも早いうちに衰退していくと述べている。発表者の調査でも、家庭内、家庭外ともに、40歳代以上は使用できるが、40歳以下の年齢は、ボンデイ語を使用することが困難となっていることが明らかになった。家庭外で使用する人も高齢層であり、公の場でもボンデイ語が使用される場合は、儀礼の唄や訓示等でしか確認できなかった。なぜボンデイ族の居住地域では、ボンデイ語の使用が衰退しているのだろうか。

民族背景、現在の移動、ボンデイ語のことわざをから考察する。

1. ボンデイ族の居住地域

1.1. ボンデイ族居住地域の位置

タンザニア北東部のタンガ州(*Mkoa wa Tanga*)のムヘザ県(*Wilaya wa Muheza*)

タンガ州の北側：ケニア国境

東側：インド洋

ボンデイ族の居住地：沿岸より40km程内陸の山地

中心の村：ムクジ村(*Kijiji cha Mkuzi*)

生業：農業

主な生産物：トウモロコシ、キャッサバ、豆、オレンジ

換金作物：オレンジータンザニア各地への販売、隣国のケニアから商人が買い付け

最寄の町：タンガ州ムヘザ県のムヘザ市(*Mji wa Muheza*)

住民ーサンバー族、ジグア族、ボンデイ族、アラブ系、インド系、チャガ族等

1.2. ボンデイ族の部族背景

- ・タンガ州在住部族：

ジグア族(s.g.*Mzigua*/p.l.*Wazigua*)(G31)、サンバー族(s.g.*Msambaa*/p.l.*Wasambaa*)(G23)、ボンデイ族(s.g.*Mbondei*/p.l.*Wabondei*)(G24)、ングウ族(s.g.*Mnguu*/*Wanguu*)(G34)、キリンディ族(s.g.*Mkilindi*/p.l.*Wakilindi*)、ルヴ族(s.g.*Mluvu*/p.l.*Waluvu*)

- ・「セウタ(*Seuta*)(弓の息子)」という共通の祖先

これらの言語は相互理解が可能であり文化も類似している(Nkondolaya 2003)

- ・Guthrie の分類：G24

- ・イギリス宣教師 アングリカン教会建設 1884年(ムクジ村)

2. 家庭外における言語使用

表1：家庭外における言語使用

	場面場所	主な使用言語	ボンデイ語使用の有無 ○主有、△一部有、×無	備考
町	1.街路（ムヘザ市）	スワヒリ語	△(高齢者のみ)	公共施設、バスターミナルなどあり、経済活動が活発な地域
	2.市場（ムヘザ市）	スワヒリ語	△(高齢者のみ)	週2回定期市が開かれる。各方面の人々が来る
	3.結婚式（ムヘザ市）	スワヒリ語	×(挙式中の使用言語)	キリスト教式 挙式アングリカン教会、披露宴において
村	4.通り（ムクジ村、ムザンバラウニ村）	スワヒリ語	△(高齢者のみ)	(イ)ボンデイ族が居住する中心の村 (ロ)幹線道路から離れた孤立した村
	5.市場(ムクジ村)	スワヒリ語	△(高齢者のみ)	揚げパン、揚げ魚等販売する小さな市場
	6.訪問販売(ムザンバラウニ村)	スワヒリ語	×(販売時の使用言語)	市場がないため、牛乳、揚げパン、炭等を訪問販売
村の 儀礼	7.結婚式前夜祭（ムクジ村、キバンダ村、ムザンバラウニ村）	ボンデイ語	○(儀式中の唄、訓示等)	女性だけで祝う祝賀会 唄、訓示等 ムクジ村、キバンダ村においては、 8の結婚式の前夜祭
	8.結婚式（ムクジ村、キバンダ村）	スワヒリ語	△(高齢者のみ)	イスラーム式の結婚式 タンザニア国内から親族が集まる
	9.葬儀（ムザンバラウニ村）	スワヒリ語	×(儀式中の使用言語)	キリスト教式 死去直後の家族内の祈り、葬儀、埋葬等
	10.死後40日の行事アロバイーニ（ムクジ村、ムザンバラウニ村）	スワヒリ語	△(高齢者のみ)	キリスト教式 (イ)タンガ州内から親族が集まる (ロ)タンザニア国内各地から集まる
	11.40日の行事アロバイーニに後の伝統儀式 Ngoma ya nkaa（ムクジ村）	ボンデイ語	○(儀礼中の唄)	土着宗教を信じるイスラームの人のアロバイーニの後に行う伝統儀式
	12.治療儀礼	ボンデイ語	○(儀礼の中の祈り、唄)	治療のために行う儀礼

〈2004、2006、2007、2008年の調査より2008年 発表者再作成〉

3. ボンデイ族の移動経路

3.1. 過去の移動

ウサンバラ山脈⑦ → 紛争 → 山を下り、沿岸地域へ移動⑤ → ケニアの南部から南下してきたディゴ族と争い → 現在のムヘザ県のムヘザ市やムクジ村に定住③(1800年代後半)

3.2. 現在の移動

教育

- ・初等教育—地元
- ・中等教育—タンガ州内
- ・高等教育—地方

通勤地

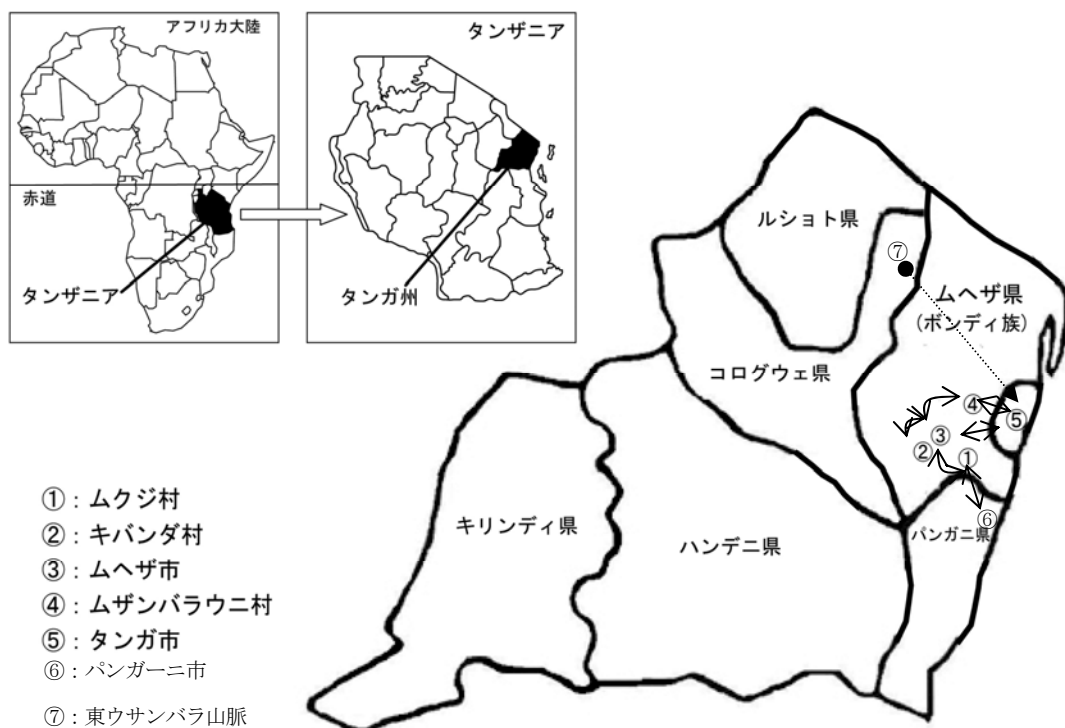
ムヘザ市③、タンガ市⑤

経済活動地域

表 2. ボンディ族が関わる主な商売

商品	買い付け先 生産元	販売先 卸し先
魚	タンガの港⑤ パンガーニの港⑥	村①②④ ムヘザ③
野菜	ムヘザ③	村①②④
キオスクの商品 米、豆、調味料、薬、煙 草、飲料水、菓子、家庭 用品等	ムヘザ③	村①②
炭	村①②	ムヘザ③
牛乳	村①	ムヘザ③
オレンジ	村①②	ケニア人

*ムヘザの定期市(木、日) — 衣料品販売、家庭用品販売：タンガ市在住商人⑤
農作物販売：ムヘザ近辺在住農民③



図：タンザニア全土及びタンガ州県別主な民族名

4. ボンデイ語のことわざとそのスワヒリ語訳

①一滴一滴 丸太を終わらす。

B : Bandubandu yabinda gogo



動詞の違い

S : Bandubandu yamaliza gogo

②老人の指はまっすぐにならない

B : Chaa cha mkuu nkakiootwa



名詞、動詞、否定の違い

S : Kidole cha mkubwa hakinyooshwi

③友のものはあなたのものと食われる

B : Chamweziyo chaigwa na chako



時制の違い、ボンデイ語には習慣相がないのでは

S : Cha mwenzio huliwa na chako

④朝食を食べる人は野菜がある人

B : Mda keo mmwe mboga



名詞修飾構造の違い

S : Mtu anayekula asubuhi ni mwenye mboga

⑤別れ合う人々は、口笛で呼び合うもの

B : Waaganao wetangana na uzi



関係節の違い

S : Wanaoagana huitana kwa mluzi

ボンデイ語のことわざとスワヒリ語訳を比較してみると、文法は類似しているが、似ていない部分もはっきりしてきた。

ボンデイ語とスワヒリ語は似ているからボンデイ語が衰退しているわけではなく、違いがあっても衰退している。

おわりに

ボンデイ族に限られたことではないが、ボンデイ族の人々は、嘗てウサンバラ山脈から沿岸部へ移動

し、その後、現ムヘザ市やその近郊の村へと移動している。また、アラブ人の交易ルートでもあったため、アラブ人との接触もあった。そして現在は、ムヘザ市、タンガ市、パンガーニ市と毎日接触があり、商売や仕事のために行き来している。よって、他部族との接触は頻繁となる。最寄の町のムヘザ市は、ボンデイ族、サンバー族、ジグア族、チャガ族、マコンデ族、アラブ系、インド系、その他と、多民族が居住している。タンガ市となると更に多様化している。よって、村に居住するボンデイの人々もスワヒリ語は必要不可欠である。

ガスリーナンバーでいう G20 に分類され、その分類が必ずしも系統関係を適切に反映したものではないという批判はあるが、ボンデイ語は、スワヒリ語との言語形式的類似性が高いことは事実である。また、アラブ商人たちの交易ルート、及びイギリス人の宣教活動によるスワヒリ語の使用が影響し、更に、タンガ市との商業活動が行われていることから、スワヒリ語との言語的近縁性が近いことは確かである。

ボンデイ族居住地域において、スワヒリ語が優勢というよりはボンデイ語が廃れているのは、ボンデイ語との近縁性が近く、さらに移動の経緯や生活環境、タンザニア政府の言語政策等によるスワヒリ語の使用頻度が多いためであることが大きな要因であると考えられる。

しかし、ことわざから言語を比較するには問題があるが、スワヒリ語とボンデイ語には、時制、関係節など文法的に相違点があることがわかった。よって、近縁性が近いからボンデイ語が衰退しているとも言い切れない。今後は、ボンデイにおいて話されているスワヒリ語のボンデイ語からの影響も調査し、言語状況を考察していきたい。

〈参考文献〉

- Batibo, Herman.1992. "The fate of ethnic languages in Tanzania" in Matthias Brenzinger(ed.), *Language Death –Factual and Theoretical Explorations with Special Reference to East Africa*, Mouton de Gruyter, pp.85-98.
- Guthrie, Malcolm. 1967. *Comparative Bantu An Introduction to the Comparative Linguistics and Prehistory of the Bantu Languages I*, Gregg Press Ltd.
- Language of Tanzania. 2005. "Bondei" (http://www.ethnologue.com/show_language.asp?code=bou) (2007年6月10日閲覧)
- Legère, Karsten. 1992. "Language shift in Tanzania", in Matthias Brenzinger(ed.), *Language Death –Factual and Theoretical Explorations with Special Reference to East Africa*, Mouton de Gruyter.
- 2002. "The Languages of Tanzania" project: background, resources and Perspectives, *Africa & Asia No2*, Department of Oriental and African Languages, Goteborg University, pp.163-186.
- Nkondokaya, V.G. (2003) *Asili ya Waseuta*, Peramiho Printing Press.
- サイド・アフメド・モハメド・ハミス. 2005. 「独立後タンザニアにおけるスワヒリ語の育成」, 竹村景子訳『ことばと社会 脱帝国と多言語化社会のゆくえ』別冊2, 三元社.
- 高村美也子. 2005a. 「多言語データベース 日本語篇 タンザニア」, 研究成果報告書, 研究代表者梶茂樹, 高知尾仁, 編集梶茂樹, 石井溥『アジア・アフリカにおける多言語状況と生活文化の動態』, 平成13年度～平成16年度科学研究費補助金(基盤研究(A)(2)), 美功社, pp.311 - 316.
- 2005b. 「タンザニアの民族語ボンデイ語から見る多言語状況と生活文化の動態」, 研究成果報告書, 研究代表者梶茂樹, 高知尾仁, 編集梶茂樹, 石井溥, 『アジア・アフリカにおける多言語状況と生活文化の動態』, 平成13年度～平成16年度科学研究費補助金(基盤研究(A)(2)), 美功社,

- pp.115-130.
- Tanzania Census 2002. 2003. General Report Central Census Office National Bureau of Statistics President's Office Planning and Privitytization Dar es Salaam.
- Tanzania Census 2002. 2004. VolumeIV MUHEZA Central Census Office National Bureau of Statistics President's Office Planning and Privitytization Dar es Salaam.
- Whiteley, Wifred .1969. *Swahili The Rise of a National Language*, Methuen & Co Ltd.
- Willis, Justin. 1992. "The Makings of a Tribe: Bondei Identities and Histories"*Journal of African History* 33, Cambridge University Press, pp.191-208.
- 湯川 恭敏. 1984. 『サンバー語彙集』, アジア・アフリカ基礎語彙集 15, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所

〈資料〉

1. ボンデイ語の時制

表3. スワヒリ語とボンデイ語の時制例

	肯定		否定	
	標準スワヒリ語	ボンデイ語	標準スワヒリ語	ボンデイ語
1 人称現在	ninapika	nambika	sipiki	nchambika
過去	nilipika	nchambika	sikupika	nchekwambika
未来	nitapika	nonda nambike	sitapika	nkinanambike
完了	nimepika	nchambika kae	sijapika	nkizatikwambika
2 人称現在	unakwenda	waita	huendi	nkuita
過去	ulikwenda	kuita	hukwenda	nkwekuita
未来	utakwenda	wonda wiite	hutakwenda	nkunawiite
完了	umekwenda	kuita kae	hujakwenda	nkuzatikuita
3 人称現在	anaandika	aandika	haandiki	nkaandika
過去	aliandika	kaandika	hakuandika	nkekuandika
未来	ataandika	onda aandike	hataandika	nkanaaandike
過去	ameandika	kaandika kae	hajaandika	nkazatikuaandika
1 人称複数現在	tunakuja	teza	hatuji	nkateza
過去	tulikuja	teza	hatukuja	nkatokweza
未来	tutakuja	tonda teze	hatutakuja	nkatinateze
完了	tumekuja	teza kae	hatujakuja	nkatizatikweza
2 人称複数現在	mnacheka	mwaseka	hamcheki	nkamseka
過去	mlicheka	mseka	hamkucheka	nkamokuseka
未来	mtacheka	monda mseke	hamtacheka	nkamnamseke
完了	mmecheka	mseka kae	hamjacheka	nkamzaticuseka
3 人称複数現在	wanahesabu	wataazia	hawahesabu	nkawataazia
過去	walihesabu	wataazia	hawakuhesabu	nkawokutaazia
未来	watahesabu	wonda wataazie	hawatahesabu	nkawanawataazie
完了	wamehesabu	wataazia kae	hawajahesabu	nkawazatikutaazie

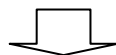


表 4. ボンデイ語の時制一覧

	1 人称	2 人称	3 人称	1 人称複数	2 人称複数	3 人称複数
〈現在〉						
肯定	n-a-	w-a-	a-a-	ti-a-	m-a-	w-a-
否定	ch- / nh-	nku-	nka-	nka-t-	nka-m-	nka-w-
〈過去〉						
肯定	ch-	ku-	ka-	te- φ -	m- φ -	wa- φ -
否定	nche-ku-	nkwe-ku-	nke-ku	nka-to-ku-	nka-mo-ku-	nka-wo-ku-
〈未来〉						
肯定	nonda-m-e-	wonda-w-e	φ onda-a-e	tonda-t-e	monda-m-e	wonda-wa-e
否定	nki-na-a-e	nku-na-w-e	nka-na-a-e	nka-ti-na-t-e	nka-m-na-m-e	nka-wa-na-wa-e
〈完了〉						
肯定	ch- kae	ku- kae	ka- kae	t- φ - kae	m- φ - kae	wa- φ - kae
否定	nki-zatiku-	nku-zatiku-	nka-zatiku-	nka-ti-zatiku-	nka-m-zatiku-	nka-wa-zatiku-

2. 所有形

表 5. スワヒリ語とボンデイ語の所有形

所有	スワヒリ語		ボンデイ語	
	主語 主辞	主辞+所有 否定主辞+所有	主語 主辞	主辞+所有 否定主辞+所有
所有	mimi	nina	mie	Nna
所有否定	ni	sina	na	nkina
所有	wewe	una	wee	una
所有否定	u	huna	u	nkuna
所有	yeye	ana	yuda	ana
所有否定	a	hana	a	nkana
所有	sis	tuna	sie	tina
所有否定	tu	hatuna	ti	nkatina
所有	nyinyi	mna	nyie	mna
所有否定	m	hamna	wa	nkamna
所有	wao	wana	wada	wana
所有否定	wa	hawana	wa	nkawana

3. 所有格

表 6. ボンデイ語の所有格

	クラス	名詞	所有格					
1	m-	mntu, mnyau, mbuzi, mwaimu, mwimi	yangu	yako	yakwe	yetu	yenu	yao
2	w-	wantu, wanyau, mbuzi, waimu, waimi	wangu, zangu	wako, zako	wakwe, zakwe	wetu, zetu	wenu, zenu	wao, zao
3	m-	mti	wangu	wako	wakwe	wetu	wenu	wao
4	mi-	miti	yangu	yako	yakwe	yetu	yenu	yao
5	φ-, u-	tuni, uyu	dangu	dako	dakwe	detu	denu	dao
6	ma-	matuni, mauyu mee	yangu	yako	yakwe	yetu	yenu	yao
7	ki-	kitabū	changu	chako	chakwe	chetu	chenu	chao
8	vi-	vitabu	vyangu	vyako	vyakwe	vyetu	vyenu	vyao
9	n-	nyumba	yangu	yako	yakwe	yetu	yenu	yao
10	n-, φ-	Nyumba, sigi	zangu	zako	zakwe	zetu	zenu	zao
11	u-	uzigi	wangu	wako	wakwe	wetu	wenu	wao
15	ku-	kuimba	kwangu	kwako	kwake	kwetu	kwenu	kwao
16	ha-	hanu	hangu	hako	hakwe	hetu	henu	hao
17	ku-	uku	kwangu	kwako	kwake	kwetu	kwenu	kwao
18	m-	umu	mwangu	mwako	mwakwe	mwetu	mwenu	mwao

チャガ語ヴンジョ方言のテンス・アスペクト接頭辞について

2008年6月28日

大阪大学大学院 言語文化研究科

八尾紗奈子

0. はじめに

チャガ語ヴンジョ方言(E62b)のテンス・アスペクト接頭辞(TA 辞)について見ていく。チャガ語はタンザニア北東部に位置するキリマンジャロ山麓に住むチャガ人によって話されている民族語である。チャガ語には多くの方言があり、チャガ語話者同士でも理解し合えないほど異なる方言もある。チャガ語内の言語学的系統関係はまだ明確にされていない。

本発表で取り上げるのは、チャガ語の主要な方言のひとつであるヴンジョ方言である。発表者は2007年7月から約3ヶ月間、タンザニア連合共和国キリマンジャロ州モシ・ルーラル県キレマ村キウラで、当地で話されているヴンジョ方言について言語調査を行い、そこで収集した資料を基にTA辞について分析した¹。

TA辞について見ていく前に、動詞の構造について見る。直説法の動詞の構造は(1)の通りである²。表1は構成要素の略号の名称である。()内の要素は任意の要素で、それ以外は必須の要素である。[ⁿ]がついた要素は複数個、現れえることを示す。否定形は文末に否定詞pfoがつき、音調が肯定形と異なる。

(1) (PS) – S – TAⁿ – (Oⁿ) – R – (EXTⁿ) – VE

表1 動詞の各構成要素の名称

略号	名称
PS	前主格接頭辞 (pre-subject prefix)
S	主格接頭辞 (subject prefix)
TA	テンス・アスペクト接頭辞 (tense-aspect prefix)
O	目的格接頭辞 (object prefix)
R	動詞語根 (verb root)
EXT	派生接尾辞 (extensive suffix)
VE	動詞語尾 (verb ending)

¹ キレマ村で生まれ育ったヴンジョ方言話者である、フランジェスカ・パウリ・キマンボ(Franzesca Pauli Kimambo)さん(推定80歳)を調査協力者とした。

² 主格接頭辞は後続するTA辞との音韻関係で音が脱落する場合があるが、要素としては動詞内に存在しており、必須のものであるといえる。

1. テンス・アスペクト接頭辞(TA 辞)

TA 辞はさまざまなテンス・アスペクト・ムードをあらわす接頭辞で、直説法において必須の要素である。TA 辞は最大 3 つまで動詞内に入ることができ、組み合わせと順番は決まっている。動詞内に現れる環境や組み合わせによって、2 つの種類に分けられ、それぞれを TA 辞 A、TA 辞 B と呼ぶ。

- TA 辞 A—1 つだけでテンス・アスペクトを表すことができる。2 つ入る組み合わせがある。
- TA 辞 B—直説法には単独で現れない。TA 辞 A の後に 1 つもしくは 2 つ入る。

表 2 に TA 辞 A と TA 辞 B の種類一覧を挙げる。

表 2 TA 辞 A と TA 辞 B の種類一覧

TA 辞		呼称		略号
TA 辞 A	le-	遠過去	far past	FP
	a-	過去	past	PST
	φ -/i-	現在	present	PRS
	echi-/achi-	未来	future	FTR
	ee-/aa-	遠未来	far future	FF
	ka-	継起	narrative	NAR
	we-	過去進行	past progressive	PP
	eke-/ake-	習慣	habitual	HAB
TA 辞 B	m-	完了	perfective	PRF
	nde-	意志	intension	INT

1. 1. TA 辞 A の種類

① 遠過去 le-

「遠過去」のTA辞は発話時より以前に起こった事柄や動作を表すときに使われる。Moshi(1994)は「遠過去」のTA時Aは昨日より以前の事柄にのみ使用できるとしている。発表者の調査では日による明確な区別は見られず、使用可能、不可能の時間的境界はあいまいであった。(2)に文例を挙げる³。

- (2) a. ngí-le-ulr-á umbé i úkou 「私は昨日、この牛を買った。」
S1sg.-FP-R「買う」-E 「牛」 dem 「昨日」
- b. n-á-le-ulr-á máruhú (inu) 「彼(女)は(今日)、バナナを買った。」
PS-S3sg.-FP-R「買う」-E 「バナナ」 「今日」

② 過去 a-

発話時より以前、「遠過去」の le-よりも時間的に近い過去に起こった事柄や動作を表すときに使われる。特に日による明確な使い分けは見られなかった。TA 辞「過去」は母音なので、主格接頭辞の母音と連続して音韻変化を起こす。i-a と連続するときは i が脱落して a になり、u-a と連続するときは融合して o になる。a-a と連続するときは a が脱落して a となる。(3)に例を挙げる。

- (3) a. ng-á-ulr-a umbé i inú íngámenyi 「私は今朝、この牛を買った。」
S1sg.-PST-R「買う」-E 「牛」 dem 「今日」 「朝」
- b. ng-á-end-a m'zrinyi (úkou) 「私は(昨日)町へ行った。」
S1sg.-PST-R「行く」-E 「町に」 「昨日」

③ 現在 φ-/i-

主格接頭辞が 3 人称単数と複数するときだけ i-を使い、その他の人称と名詞クラスるときは φ-である。「現在」の TA 辞は発話時と同時に起こっている出来事や動作を表すのに使用される。また、実現の確証がもたれている未来のことについても使われる。

- (4) a. mvúó í-φ-kap-a ulálu 「雨が今、降っている。」
「雨」 S(4)-PRS-R「降る」-E 「今」
- b. n-á-í-ulr-a umbé i kyúkonyi 「彼(女)は夕方この牛を買う。」
PS-S3sg.-PRS-R「買う」-E 「牛」 dem(9) 「夕方」

³ ヴンジョ方言には声調があるが、本発表では分析を行っていない。例文に付けている声調記号は、発声のままに表記したもので、分析したものではない。´は高声調をあらわす。

④ 未来 echi-/achi-

echi-は主格接頭辞の母音が a, i のときに使われ、achi-は主格接頭辞の母音が u のときに使われる。「未来」の TA 辞は発話時よりも後に起こる出来事や行われる動作について表現するときに使われる。また、発話時から近い未来で、かつ実行の確証が高い事柄に対しても使われる。「未来」の TA 辞は母音から始まるので、主格接頭辞の母音と音韻変化を起こす。i-e と連続するときは i が脱落するが、語頭のときは半母音化する。a-e と連続するときは a が脱落し、u-a と連続するときは融合して o となる。(5)に例を挙げる。

(5) a. ng-échi-samb-a máwokó ngáma 「私は明日、手を洗う。」

S1sg.-FTR-R「洗う」-E 「手」 「明日」

⑤ 遠未来 ee-/aa-

ee-は主格接頭辞の母音が a, i のときに使われ、aa-は主格接頭辞の母音が u のときに使われる。「遠未来」の TA 辞は発話時よりも後、「未来」の TA 辞が使われる場合よりも遠い未来で起こる出来事や、実行に確証がなく不確かな事柄に対して使われる。主格接頭辞との連続で起こる音韻変化は「未来」のときと同じである。(6)に例を挙げる。

(6) a. ng-ée-ulr-a umbé i ngáma 「私は明日、この牛を買うだろう。」

S1sg.-FF-R「買う」-E 「牛」 dem 「明日」

b. ng-ée-ulr-a umbé i m'firí ungi 「私はいつか、この牛を買うだろう。」

S1sg.-FF-R「買う」-E 「牛」 dem 「日」 「他の」

⑥ 継起 ka-

「継起」の TA 辞は物語の地の文にも使われ、複数の動作や現象が連続して起こることを表現するときに使用される。動詞内で主格接頭辞と連続するときに、主格接頭辞によって異なった形で現れる。表 3 に「継起」の ka-が挿入されたときの主格接頭辞の一覧を挙げる。(7)は例である。

表3 「継起」が挿入されたときの主格接頭辞(S-NAR)

	1 人称 sg.	ng-a- (< ngi-ka-)		1 人称 pl.	lu-ko- (< lu-ka-)
	2 人称 sg.	ko- (< u-ka-)		2 人称 pl.	mu-ko- (< mu-ka-)
1	3 人称 sg.	ka- (< a-ka-)	2	3 人称 pl.	wa-ka- (< wa-ka-)
3		u-ko- (< u-ka-)	4		i-ka- (< i-ka-)
5		lyi-ka- (< lyi-ka-)	6		wa-ka- (< wa-ka-)
7		kyi-ka- (< kyi-ka-)	8		shi-ka- (< shi-ka-)
9		i-ka- (< i-ka-)	10		tsi-ka- (< tsi-ka-)
11		lu-ko- (< lu-ka-)	14		wu-ko- (< wu-ka-)
15		ku-ko- (< ku-ka-)	16		ha-ka- (< ha-ka-)
17		ku-ko- (< ku-ko-)			

- (7) a. n-á-le-end-a zremenyí ká-karis-a na mbuya óke
 PS-S3sg.-FP-R「行く」-E 「畑」 (S3sg.)NAR-R「会う」-E 「～と」 「友達」 「彼の」
 「彼(女)は畑へ行き、友達に会った。」

⑦ 過去進行 we-

「過去進行」のTA辞は発話時より以前の過去の時点で進行していた、もしくは継続していた事柄や動作について表すときに使われる⁴。(8)に例を挙げる。

- (8) n-á-we-end-a zremenyi 「彼(女)は畑へ向かっているところだった。」
 PS-S3sg.-PP-「行く」-E 「畑」

⑧ 習慣 eke-/ake-

eke-は主格接頭辞の母音がa, iのときに使われ、ake-は主格接頭辞の母音がuのときに使われる。「習慣」のTA辞は発話時に動作や物事の状態が習慣的であることを表すときに使用される⁵。(9)に例を挙げる。

- (9) ngé-ke-amk-a iwinyi kyilá m'firi 「私は毎朝、早く起きる。」
 S1sg.-HAB-R「起きる」-E 「早く」 「毎」 「日」

⁴ Moshi(1994)が we-を be 動詞の w-a と、primary marker と呼ぶ i-というマーカとの結合した形と分析しており、この we-を複合形式であるとしている。本発表ではひとつの TA 辞として分析する。

⁵ Moshi(1994)は eke-/ake-という形態も、ka-a「居る、住む」という動詞と i-というマーカとの計統合した形であるとし、複合形式であると分析している。本発表ではひとつの TA 辞として分析する。

1. 2. TA 辞 A の組み合わせ we-ke-

動詞内に「過去進行」と「習慣」の2つが入ることが可能である。順番は「過去進行」 - 「習慣」で、we-ke-となり過去の習慣を表す。

(10) mangi n-á-we-ke-chilyí-á úruka lóke ámónyí

「王」 PS-S3sg.-PP-HAB-R「治める」-E 「国」 「彼の」 「一人で」
「王は一人で国を治めたものだ。」

1. 3. TA 辞 B

TA 辞 B は直説法では単独で動詞内に入ることが出来ず、必ず TA 辞 A の後に続く。接続法では単独で現れることが可能である。

① 完了 m-

TA辞Aと動詞内に現れるとき、TA辞Aで表される意味に「完了」、「経験」の意味を付加させる⁶。「完了」のTA辞と組み合わせるTA辞Aは「遠過去」のle-と「過去」のa-である。表4に組み合わせ一覧を挙げ、(11)に例を挙げる。

表4 TA 辞 A と「完了」 m-の組み合わせ一覧

TA 辞 A	TA 辞 B	意味
「遠過去」 le-	「完了」 m-	発話時より遠い過去
「過去」 a-		発話時より近い過去

- (11) a. ngí-le-m'-som-a kyítapú kyi 「私はこの本を読んだことがある。」
S1sg.-FP-PRF-R「読む」-E 「本」 dem 「私はもうこの本を(前に)読んだ。」
- b. ng-á-m'-ly-a kyélyá kya kyíngoto 「私はもう昼食を食べた。」
S1sg.-PST-PRF-R「食べる」-E 「食べ物」「の」「昼」

② 意志 nde-

TA 辞 A と動詞内に入るとき、TA 辞 A の意味に「意志」の意味を付加させる。「意志」の nde-は動詞-end-a から派生したと考えられ、この元の意味のままに「～しに行く」という意味でも使われる。また、nde-は TA 辞 B の m-とも組み合わせる使用ができる。表5に TA 辞 A との組み合わせ一覧を挙げ、(12)にその例を挙げる。表6に「意志」nde-と「完了」m-の組み合わせの一覧を挙げ、(13)にその例を挙げる。

⁶ Moshi(1994)は m-を ma-a 「終わる」という動詞から派生していると分析している。

表5 TA辞Aと「意志」nde-の組み合わせ

TA 辞 A	TA 辞 B	意味
「遠過去」 le-	「意志」 nde-	遠過去意志
「過去」 a-		過去意志
「現在」 φ -/i-		現在意志
「未来」 echi-/achi-		未来意志
「遠未来」 ee-/aa-		遠未来意志

- (12) a. n-á-le-nde-ulr-á ngúo 「彼(女)は服を買うつもりだった。」
 PS-S3sg.-FP-INT-R「買う」-E 「服」 / 「彼(女)は服を買いに言った。」
- b. ngí- φ -nde-ulr-á ngúo 「私は服を買うつもりだ。」
 S1sg.-PRS-INT-R「買う」-E 「服」 / 「私は服を買いに行く。」

表6 「完了」m-と「意志」nde-の組合せ一覧

TA 辞 A	TA 辞 B	TA 辞 B	意味
「遠過去」 le-	「完了」 m-	「意志」 nde-	遠過去完了意志
「過去」 a-			過去完了意志

- (13) ngí-lé-m-nde-zrezr-a 「私は（前から言うつもりで）すでに言った。」
 S1sg.-FP-PRF-INT-R「言う」-E

また、「意志」の nde-は接続法のときは単独ではいることができる。そのときは「～しに行く」という意味のみになる。特に nde-の入った接続法の否定で「～したことがない」という未経験の意味を表す。

- (14) a. ngí-lá-ndé-sóm-é kyítapú kyí pfo
 S1sg.-NEG-INT-R「読む」-SE 「本」 dem 否定詞
 「私はこの本を読んだことがない。」
- b. n-á-ngí-amb-a ngí-nde-ulr-e nyáma
 PS-S3sg.-O1sg.-R「言う」-E S1sg.-INT-R「買う」-E 「肉」
 「彼(女)は私に肉を買いに行くように言った。」

2. まとめ

本発表では、発表者が現地調査で得た資料を基に、ウンジョ方言の TA 辞について分析した。TA 辞を動詞内に現れる環境と組み合わせによって2つの種類に分け、それぞれの表す意味と組み合わせについて見ていった。「遠未来」、「未来」、「現在」、「過去」、「遠過去」の TA 辞に関して使用できる時間の境界を明らかにすることができなかつたため、今後の課題としたい。また、それぞれの TA 辞の組み合わせについて調査を進め、網羅的にすべての組み合わせを提示していくよう務める。

<略号一覧>

APPL 適用形派生辞 (applicative)

dem 指示詞 (demonstrative)

E 基本語尾 (ending)

NEG 否定詞 (negative word)

NEGM 否定辞 (negative marker)

O 目的格接辞 (object marker)

pl. 複数 (plural)

R 動詞語根 (verb root)

sg. 単数 (singular)

SE 接続法語尾 (subjunctive ending)

S 主格接辞 (subject marker)

1, 2, 3 主語・目的格接辞の人称 (nominative/objective prefix, person)

(数字) 名詞クラス番号 (nominal class)

- 形態素の境界

<参考文献>

Moshi, Lioba. 1994. 'Time Reference in KiVunjo-Chaga,' *Journal of Africa Languages and Linguistics* 15, pp127-139, Dordrecht: Foris Publications.

Philippon, Gérard and Marie-Laure Montlahuc. 2003. 'Kilimanjaro Bantu (E60 and E74),' *The Bantu Languages*, pp475-500, Derek Nurse and Gérard Philippon(eds.), London: Routledge.

ヘレロ語の名詞声調 (Bantu, R31) — 語声調の分類とその現れ方 —

米田信子 (大阪女学院大学)

ヘレロ語では、2音節の名詞語幹を持つ名詞の声調パターンに以下の4種類がある。

H=High(●), L=Low(○), á=High, ā=Mid, a=Low

1. otji-hape	「果物」	(LL-LL)	○○- ○○
otji-vavá	「枝」	(LL-LH)	○○- ○●
oru-táví	「羽」	(LL-HH)	○○- ●●
otji-tíha	「机」	(LL-HL)	○○- ●○

ところが同じ名詞が常に同じ声調形で現れるわけではなく、環境によって現れ方が異なっている。

2. <u>Ótjìhape.</u>		「(それは) 果物です。」	(HH-LL)
3. <u>Otjihape</u>	tjá-u.	「果物が落ちた。」	(LL-LL)
果物(7)	SM(7)/PAST-fell/V		
4. Mbá-rand-á	<u>otjihápe.</u>	「私は果物を買った。」	(LH-HL)
SM(1sg)/PAST-buy-V	果物(7)		
5. Mé-rand-á	<u>otjihape.</u>	「私は果物を (これから) 買う。」	(LL-LL)
FUR/SM(1sg)-buy-V	果物(7)		

2, 3, 4 を比ると、現れる声調の形は名詞の文法役割によって異なっているように見える。しかし5が示すように、目的語の場合でも3の主語の場合と同じ声調の形で現れることもある。本発表では、ヘレロ語の名詞の声調パターンにはどのようなものがあるのか、どのような環境においてどの形が現れるのか、それぞれの形の基底形とそこに適用されている音韻規則はどんなものなのか、といったことについて、以下のような報告する。

- ◆ ひとつの名詞に3つの声調形がある
- ◆ それらの形は接頭辞部分の声調の交替による
 - I) default : LL-, II) complement : LH-, III) presentative : HL-
- ◆ どの形で現れるのかは、その名詞が置かれる位置や用いられる活用形によって決定される
- ◆ 現れる際には次のような規則が適用される
 - ア) 接頭辞部分の H は右隣のモーラに拡張する。
 - イ) 拡張によって H が3つ以上並んだら、2つめ以降の H は Mid で現れる。
 - ウ) 語幹の L 以降の H は Mid で現れる。
 - エ) ただし語末の H は (イ), (ウ) が適用されずに H で現れることもある。
 - オ) 「2音節フット」で、右に行くほど、レンジが低くなる。

e.g.) ótjì- hakáutú の実際の現れ方・・・ 55-2312

<以下は配付したハンドアウト>

1. はじめに

●ヘレロ語 (Otjiherero) の概要

- ・地域： ナミビア, ボツワナ (アンゴラ, 南アフリカ)
- ・話者数： 約 13,3000 人。ナミビア 113,000 人, ボツワナ 20,000 人 (Ethnologue)
- ・変種： ナミビア：セントラル・ヘレロ (ヘレロ人), カオコランド・ヘレロ (ヒンバ人)
ボツワナ：イースト・ヘレロ (ンバンデル人)

●ヘレロ語の声調

・語彙対立

-pora	「眉間に線を引く」	ozongoró	「シマウマ pl.」
-póra	「冷める」	ozongoro	「ひざ pl.」
-póra	「やぶる」		

・文法対立

Mba-vér-éré.	「私は (ずっと前) 病気になった (今は治っている)。」	(遠過去完了)
Mbá-vér-ére.	「私は (昨日) 病気になった (今は治っている)。」	(近過去完了)
cf. Mbá-vér-e.	「私は病気になった (まだ治っていない)。」	(当日過去)

●主な先行研究

(★は声調に関する論文)

- ★Köhler, Oswin 1958. "Tongestalt und Tonmuster in der Infinitivform des Verbum im Hererō *Afrika und Übersee* 42, 97-110, 159-172.
- ★湯川恭敏 1998. 「ヘレロ語動詞アクセント試論」 *アジア・アフリカ言語文化研究* 55, 191-235.
- ・Ohly, Rajmund 1999. "A Grammatical Sketch of Herero." *Studies of the Department of African Languages and Culture* 25.
- ★Elderkin, E.D. 1999. "Word keys in Herero." *Afrikanistische Arbeitspapiere* 57, 151-166.
- ★Möhlig, W. 2003. "The prosodological structure of Herero." *Frankfurter Afrikanistische Blätter* 15, 165-179.
- ・Möhlig, W. J.G., Lutz Marten, J.U. Kavari 2003. *A Grammatical Sketch of Herero*. Rüdiger Köppe Verlag.
- ・Elderkin, E.D. 2003. "Herero (R31)" in Nurse, Derek & Gerard Philippson (eds.) *Bantu Languages*. London: Routledge, 581-608.
- ★Marten, Lutz and J. Kavari 2005. "Tone case in Herero: the coding of head-complement relations, linear order, and information structure." ms SOAS and Univ. of Namibia.

2. 名詞の声調パターンと現れ方

名詞の構造：冒頭母音－名詞クラス接頭辞－名詞語幹

|← 接頭辞部分 →|

o - vi - hape (ovi-hape) 「果物(8)」

名詞は、現れる環境によって声調形が異なる。(SM=主語接辞, PAST=過去時制辞, F=語尾)

- 1) Otjihape tjá-u. 「果物が落ちた。」 (LLLL)
果物(7) SM(7)/PAST-fell/F
- 2) Mbá-rand-á otjihápe. 「私は果物を買った。」 (LHHL)
SM(1sg)/PAST-buy-F 果物(7)
- 3) Ótjihape. 「(それは) 果物だ。」 (HHLL)

動詞の前 ((1)の環境) に現れる 2 音節名詞語幹の声調パターン

- 4) (LL-)LL: otji-hape 「果物 sg.」 ○○- ○○
omu-yeve 「ハンターsg.」
 - 5) (LL-)LH: otji-vavá 「翼 sg.」 ○○- ○●
oo-taté 「父親 pl.」
 - 6) (LL-)HL: otji-tíha 「テーブル sg.」 ○○- ●○
omu-téna 「兄, 姉 sg.」
 - 7) (LL-)HH: oru-táví 「枝 sg.」 ○○- ●●
omu-néné 「親 sg.」
- cf. 8) (LL-)FH: ova-nâtjé 「子供 pl.」

<表 1: 2 音節語幹名詞の現れ方>

		果物	翼	テーブル	枝
I	文頭 SI (1) ~が落ちた	otji-hape	otji-vavá	otji-tíha	oru-táví
II	動詞直後 IAV (2) ~を買った	otjí-hápe	otjí-vāvá (oó- tátē)	otjí-tíha	orú-tāvī
III	It's ~, ko-+ (4) ~だ	ótjí-hape	ótjí-vavā	ótjí-tíha	órū- tāvī

2.1. 文中の位置とテンス・アスペクト (資料 1 と表 3 参照)

- 9) Mbi-rand-a otjihápe. 「私は果物を (いつも) 買う。」
SM(1sg)-buy-V 果物(8)
- 10) Mé-rand-á otjihape. 「私は果物を (これから) 買う。」
FUR/SM(1sg)-buy-V 果物(8)

2.2. 新情報と旧情報

・ Locative inversion

- 11) a Ozongéyama za-túr-a mókutí. 「ライオンは森に住んでいた。」
 ライオン(10) SM(10)-住む-V Loc(18)/森(9)
- b Mokutí mwa-túr-a ozóngéyama. 「森にはライオンが住んでいた。」
 Loc(18)/森(9) SM(18)-住む-V ライオン(10)

・ 新情報 (主語の位置)

- 12) a Pá-váker-w-e tjíké? 「昨日何が取られたの？」
 SM(16)/PAST-steal-PASS-F waht
- b Otjihape tjá-vákér-w-e. 「果物が取られた。」
 fruit(7) SM(7)/PAST-steal-PASS-F
- c Otjihávéro tjá-vákér-w-e. 「椅子が取られた。」
 chair(7) SM(7)/PAST-steal-PASS-F

・ 旧情報 (主語の位置)

- 13) a Otjihape tjá-váker-w-e iyí úne? 「果物は誰に取られたの？」
 fruit(7) SM(7)/PAST-steal-PASS-F by who
- b Otjihávéro tjá-váker-w-e iyí úne? 「椅子は誰に取られたの？」
 chair(7) SM(7)/PAST-steal-PASS-F by who

・ 新情報 (目的語の位置) 現在完了

- 14) a Vé-mu-pé iyé? 「彼らは彼女に何をあげたの？」
 SM(3pl)/PAST-OM(3sg)-give/F what
- b Vé-mu-pé otjihápe. 「彼らは彼女に果物をあげた。」
- c Vé-mu-pé otjihávéro. 「彼らは彼女に椅子をあげた。」

・ 旧情報 (目的語の位置)

- 15) a Oúne gwé-mu-pé otjihape? 「誰が彼に果物をあげたの？」
 who SM(1)/PAST-OM(3sg)-give/F fruit(7)
- b Epangá ré-mu-pé otjihápe. 「友達が彼に果物をあげた。」
 friend(5) SM(5)/PAST-OM(3sg)-give/F fruit(7)
- 16) a Oúne gwé-mu-pé otjihávéro? 「誰が彼に椅子をあげたの？」
- b Epangá ré-mu-pé otjihávéro. 「友達が彼に椅子をあげた。」

3. 観察のまとめと分析

<表 2 : 2 音節語幹名詞の分析後の形>

▲は拡張した H

		<接頭辞の形>	果物	翼 b.	親	兄
I	文頭 SI (default)	○○- otji- (LL-)	○○- ○○ otji-hape	○○- ○● otji-vavá	○○- ●● oru-táví	○○- ●○ otji-tíha
II	動詞直後 IAV (complement)	○●- otjí- (LH-)	○●- ○○ ○●- ▲○ otjí-hápe	○●- ○● ○●- ▲● otjí-vavá	○●- ●● orú-táví	○●- ●○ otjí-tíha
III	It's ~, ko-+ (presentative)	●○- ótji- (HL-)	●○- ○○ ●▲- ○○ ótji-hape	●○- ○● ●▲- ○● ótji-vavá	●○- ●● ●▲- ●● órú-táví	●○- ●○ ●▲- ●○ ótjí-tíha

・観察されること

i) 名詞の活用形を決定しているのは、文中の位置、活用形の種類、疑問文 (WH 疑問文) かどうか、であって文法関係や情報構造 (新情報か否か) は関係しない。

ii) 名詞の“活用”は接頭辞部分の声調の交替による

I) default : LL-

II, III 以外の場合。

II) complement : LH-

動詞の直後に置かれた名詞。ただし WH 疑問文といくつかの活用形*は除く。

III) presentative : HL-

iii) 語末と次末の音節がどちらも L の場合、語末の L は上昇調で現れることが多い。

ア) 接頭辞部分の H は右隣のモーラに拡張する。 ▲

イ) 拡張によって H が 3 つ以上並んだら、2 つめ以降の H は Mid で現れる。 グレーの▲, ●

ウ) 語幹の L 以降の H は Mid で現れる。 グレーの●

エ) ただし語末の H は (イ), (ウ) が適用されずに H で現れることもある。 赤の●

オ) 「2 音節フット」で、右にいくほど、レンジが低くなる。

ótjí- hakáutú の実際の現れ方・・・ 55-2312

4. 名詞語幹の音節数別の声調パターン

3 音節 (LL-)LLL	○○- ○○○	omu- pangure	裁判官
?(LL-)LLH	○○- ○○●	omu- seniná	中指
(LL-)LHL	○○- ○●○	ovi- maríva	お金
(LL-)LHH	○○- ○●●	otji- nambáká	カエル
(LL-)HHL	○○- ●●○	omu- kázóna	娘
(LL-)HHH	○○- ●●●	omu- kázéndú	女
(LL-)HLL	○○- ●○○	otji- pwíkiro	収納庫
?(LL-)HLH	○○- ●○●	otji- tjáuví	蜘蛛

4 音節	(LL-)LLLL	○○- ○○○○	otji- yarisiro	サイン
	(LL-)LLHH	○○- ○●●●	omu- korombátá	ミミズ
	(L-) LLHL	○○- ○●●○	o- reseváte	村
	(LL-)LHLL	○○- ○●○○	otji- nangúsuna	かに
	(LL-)LHLH	○○- ○●○●	otji- hakáutú	芋
	(LL-)HHLL	○○- ●●○○	omu- zóróngondo	パイソン
	(LL-)HLHH	○○- ●○●●	oru- kwényaéré	うさぎ
	(L-) HLHL	○○- ●○●○	o- húnguríva	鶏

5 音節 (LL-)HHHLL ○○- ●●●○○ oka-siónápati 横腹

5. 接頭辞部分が冒頭母音だけの名詞

complement 形では、名詞語幹が L で始まる場合には冒頭母音が L で現れ、語幹頭の音節が H で現れて名詞クラス接頭辞のようにふるまう。名詞語幹が H で始まる場合には冒頭母音は H で現れる。この H が名詞クラス接頭辞のようにふるまう。Presentative 形では名詞語幹頭の声調に関係なく冒頭母音は H で現れる。

名詞語幹が L で始まる名詞

o- ndiripuku 「こうもり」		cf.) otji- yarisiro 「サイン」
o- ndírípuku (o-ndí rípuku)	○- ● ●○○	otj́- yárisiro ○●- ●○○○
ó- ndírípuku (ó-ndí rípuku)	●- ● ○○○ ?	ótj́- yarisiro ●●- ○○○○

名詞語幹が H で始まる名詞

o- sérékaze 「妻」		cf.) omu- zóróngondo 「パイソン」
ó- sērēkaze		omú- zōrōngondo
ó- sērēkaze (ó-sē rēkaze) ?		ómū- zōrōngondo

<資料1：環境チェック例文 位置とテンス・アスペクト >

●テンス・アスペクト体系

遠過去非完了：	SM-a-	語幹-a
遠過去完了：	SM-a-	語幹-ire
過去進行	áa- SM-	語幹-V ?
近過去完了：	SM-á-	語幹-ire
近過去非完了：	SM-á-	語幹-V
習慣現在	SM-	語幹-a
近未来	ma- SM-	語幹-V
不確信未来	máa- SM-	語幹-V
確信未来	ma- SM-ka-	語幹-a

- ① 「Xは働いた。」 SUB・SI (近過去非完了) I

Omuténa wá-ungúr-á.
兄(1) SM(1)/PAST-work-BF

- ② 「Xは犬に咬まれた」 Passive SUB・SI (遠過去非完了)

Omuténa wa-rúmát-w-á ombwá.
SM/PAST-bite-PASS-BF 犬

- ③ 「Xに私は練り粥を作った」 ApO・SI (近過去完了)

Omuténa mbé-mu-zík-ír-é orúheré.
兄(1) SM(1sg)-OM(1)-cook-AP-V 練り粥(11)

- ④ 「先生はXを教えた。」 DO・IAV・SF (近過去完了)

Omítiri yá-raér-é omuténa.
先生(9) SM(9)/PAST-teach-V 兄(1)

「先生はXを教えている。」 DO・IAV・SF (近未来/現在進行)

Omítiri má-í-rarér-é omuténa.
先生(9) FUT-SM(9)-teach-V 兄(1)

- ⑤ 「友だちはXを棒で殴った。」 DO・IAV・nonSF (近過去完了)

Epagá rá-ton-ó omuténa nokáti.
友人(5) SM(5)/PAST-beat-V X with/stick(12)

「友だちはXを棒で殴っている。」 DO・IAV・nonSF (近未来/現在進行)

Epagá má-rí-ton-ō omuténa nokáti.
友人(5) FUT-SM(5)-beat-V X with/stick(12)

- ⑥ 「私は X のためにウガリを作った。」 ApO・IAV・nonSF(with DO) (近過去完了)

mbá-zik-ír-é omúténa oruhéré.
SM(1sg)/PAST-cook-AP-V X 練り粥(11)

- 「私は X のためにウガリを作っている。」 ApO・IAV・nonSF(with DO) (近未来/現在進行)

mé-zik-ir-e omúténa oruhéré.
FUT/SM(1)-cook-AP-V X 練り粥(11)

- ⑦ 「先生は X に代わって友だちを叩いた」 ApO/DO*・nonIAV・SF (近過去完了)

Omítiri yá-ton-én-éné epánga omúténa.
teacher(9) SM(9)/PAST-beat-AP-PF friend(5) X

- 「先生は X に代わって友だちを叩くだろう」 ApO/DO*・nonIAV・SF (近未来/現在進行)

Omítiri má-í-ton-én-é epangá omúténa.
teacher(9) FUT/SM(9)-beat-AP-V friend(5) X

- ⑧ 「先生は私のために (に代わって) X を叩いてくれた。」 DO・IAV・SF (近過去完了)

Omítiri yé-ndji-ton-én-é omúténa.
teacher(9) SM(9)/PAST-OM(1)-beat-AP-PF X

- 「先生は私のために (に代わって) X を叩いてくれる。」 DO・IAV・SF (近未来/現在進行)

Omítiri ma-í-ndji-ton-én-é omúténa.
teacher(9) FUT/SM(9)-OM(1)-beat-AP-V X

- ⑨ 「私は X と一緒に行った。」 <～といっしょに> (近過去完了)

Mbá-ire nomúténa.
SM(1sg)/PAST-go/PF with/brother

- 「私は X と一緒に行く。」 <～といっしょに> (近未来/現在進行)

Mé-í nomúténa.
FUR/SM(1sg)-go/V with/brother

- ⑩ 「私は店に X と一緒に行った。」 <～といっしょに> (遠過去非完了)

Mba-yá kósutora nomúténa.
SM(1sg)/PAST-go/BF Loc(16)/store with/brother

- 「私は (これから) 店に X と一緒に行く。」 <～といっしょに> (近未来/現在進行)

Mé-í kosutóra nomúténa.
FUT/SM(1sg)-go/V Loc(17)/store with/brother

- ⑪ 「果物は箱に X によって入れられた。」 <～によって> (近過去非完了)

Otjihape tja-twám-éw-a motjimbakéte komuténa.
fruit(7) SM(7)/PAST-put-PASS-BF Loc(18)/box by/brother

「果物は X によって箱に入れられた。」 (近過去非完了)

Otjihape tja-twám-éw-a kómūtēna motjimbakéte.
fruit(7) SM(7)/PAST-put-PASS-BF by/brother Loc(18)/box

「果物は箱に X によって入れられる。」 <～によって> (近未来/現在進行)

Otjihape má-tjí-twám-éw-á motjimbakéte komuténa.
fruit(7) FUT/SM(7)-put-PASS-BF Loc(18)/box by/brother

「果物は X によって箱に入れられる。」

Otjihape má-tjí-twám-éw-á komuténa motjimbakéte.
fruit(7) FUT/SM(7)-put-PASS-BF by/brother Loc(18)/box

- ⑫ 「私が料理を作ってあげた X」

omuténa ngú mbé-mu-zík-ir-ire. (近過去完了)
brother(1) R(1) SM(1sg)/PAST-OM(1)-cook-AP-PF

「私が料理を作ってあげている X」 (近未来/現在進行)

omuténa ngú mé-mu-zík-ir-e.
brother(1) R(1) FUT/SM(1sg)-OM(1)-cook-AP-V

- ⑬ 「X の名前」

éná romuténa
name(5) of/brother

- ⑭ 「X です。」

Ómūtēna.

- ⑮ 「この X」

omuténa ngwí

- ⑯ 「これは X です。」

Íngwí ómūtēna.

<表 3 : 声調パターン×位置とテンス・アスペクト>

	環境 例文	omuyeve "hunter"	ootaté "fatehrs"	omunéné "parent"	omuténa "brother"
1	SUB・SI X has fell down.	omuyeve	ootaté	omunéné	omuténa
2	PassiveSUB・SI X was bitten by a dog.	omuyeve	ootaté	omunéné	omuténa
3 -1	DO・TOP・SI (past) X, I cooked porridge for him.	omuyeve	ootatē	omunéné	omuténa
3 -2	DO・TOP・SI (future) X, I am cooking porridge for him.	omuyeve	ootaté	omunéné	omuténa
4 -2	DO・IAV・SF (future) Teacher will teach X.	omuyeve	ootaté	omunéné	omuténa
5 -2	DO・IAV・nonSF (future) Friend will hit X with a stick.	omuyeve	ootaté	omunēnē	omuténa
6 -2	ApO・IAV・nonSF (future) I will cook porridge for X.	omuyeve	ootaté	omunéné	omuténa
7 -1	ApO・nonIAV・SF (past) Teacher hit friend for X.	omuyevě	ootaté	omunéné	omuténa
7 -2	ApO・nonIAV・SF (future) Teacher will hit friend for X.	omuyevě	ootaté	omunéné	omuténa
8 -2	DO・IAV・SF・with OM (future) Teacher will hit X for me.	omuyevě	ootaté	omunéné	omuténa
11 -2	COM<by>・IAV・nonSF (future) Fruit will be put by X in a box.	komuyeve	kootaté	komunéné	komuténa
12 -1	REL (past) X who I cooked for	omuyeve	ootaté	omunéné	omuténa
12 -2	REL (future) X who I'm cooking for	omuyeve	ootaté	omunéné	omuténa
15	This X	omuyevē	ootaté	omunéné	omuténa
4 -1	DO・IAV・SF (past) Teacher taught X.	omúyéve	oótátē oótāté	omúnēnē omúnēné	omúténa
5 -1	DO・IAV・nonSF (past) Friend hit X with a stick.	omúyéve	oótátē	omúnēnē	omúténa
6 -1	ApO・IAV・nonSF (past) I cooked porridge for X.	omúyéve	oótátē	omúnēnē	omúténa
8 -1	DO・IAV・SF・with OM (past) Teacher hit X for me.	omúyéve	oótāté	omúnēnē	omúténa
9 -1	COM<with>・IAV・SF (past) I went with X.	nomúyéve	noótátē	nomúnēné	nomúténa
9 -2	COM<with>・IAV・SF (future) I'm going with X.	nomúyeve	noótátē	nomúnéné	nomúténa
10 -1	COM<with>・nonIAV・SF (past) I went to shop with X.	nomúyeve	noótátē	nomúnéné	nomúténa
10 -2	COM<with>・nonIAV・SF (future) I will go to shop with X.	nomúyeve	noótátē	nomúnéné	nomúténa
13	name of~ is written	romúyeve	roótáté	romúnéné	romúténa
11 -1	COM<by>・IAV・nonSF (past) Fruit was put by X in a box.	kómúyeve	kóótaté	kómūnēnē	kómūténa
14	It's X.	ómúyeve	óótaté	ómūnēnē	ómūténa
16	This is X.	ómúyeve	óótatē	ómūnēnē	ómūténa